



MASUDA City Council News

# ますだ市議会だより

2026

2

February

No.156

～「ひと」と「ひと」とをつなぎ  
地域の未来を育む～



ふるさと・ひとつなぎコーディネーター

いわさかなつき 岩坂菜月さん(左)、やまだまこ 山田真子さん(右)

特集

P02▶▶「益田市高校生議会」開催決定！

Pick up

P03▶▶ 第573回 12月定例会

P14▶▶ 常任委員会視察報告

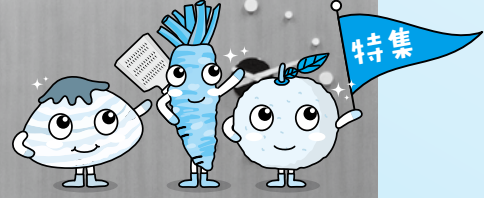
令和8年2月1日発行

編集・発行

島根県益田市議会 〒698-8650 益田市常盤町1番1号

TEL: 31-0490 FAX: 23-0920 e-mailアドレス: gikai@city.masuda.lg.jp

緊急告知!!



令和8年  
1月27日(火)

益田市議会では、次世代を担う子どもたちが議会の役割や市政について学ぶ機会である主権者教育の一環として、「益田市高校生議会」を実施しています。

今年度も、島根県立益田高等学校2年生が一般質問に臨みます！

「益田市高校生議会」開催！

今回は、令和6年度益田市高校生議会での議員との意見交換の様子を紹介！



意見交換は、高校生の一般質問の内容についての掘り下げや益田市の将来についてなど、多岐にわたりました！



※高校生議会の様子は、後日、ひとまるビジョンで放送されます。ぜひご覧ください。

議会ミニ知識



- ◎ 議員の人数は決まっているの？
- ▲ 益田市議会議員定数条例により、20名と定められています。

# 一 般 質 問

一般質問とは、議員が市の行財政全般について、市と政策討論するものです。令和7年12月定例会では、12名の議員が登壇しました。



- ※一般質問の様子の録画中継を、全会期日程終了の約1週間後から配信しています。
- ※会議録は定例会終了3カ月後から閲覧できます。
- ※各議員名の下に掲載している二次元コードから、スマートフォンなどで質問者の動画がご覧いただけます。

益田市議会



## 第573回 12月定例会

12月定例会では、令和7年度補正予算、その他条例改正などについて審議を行いました。

- 11/18 議会運営委員会
- 11/25 本会議 全員協議会  
一般議案・令和7年度補正予算等の上程
- 12/ 2 本会議 一般質問 議会運営委員会 **4ページ~**
- 12/ 3 本会議 一般質問
- 12/ 4 本会議 全員協議会  
令和7年度一般会計補正予算等の追加議案、請願案件の上程
- 12/ 5 総務文教委員会 広聴広報委員会 **12ページ~**  
付託議案について、総務文教委員会で審査  
広聴広報委員会で、今後の取組内容について確認
- 12/ 8 福祉環境委員会 萩・石見空港対策特別委員会  
付託議案について、福祉環境委員会で審査  
萩・石見空港対策特別委員会で、今後の取組内容について確認
- 12/ 9 経済建設委員会 中山間地域振興特別委員会  
付託議案について、経済建設委員会で審査  
中山間地域振興特別委員会で、今後の取組について確認
- 12/10 一般会計予算審査委員会  
令和7年度一般会計補正予算について審査
- 12/11 議会運営委員会
- 12/12 本会議 全員協議会 一般会計予算審査委員会  
令和7年度一般会計補正予算について審査  
各常任委員会委員長による審査結果報告  
質疑・討論ののち採決  
追加議案上程、質疑・討論ののち採決

## 問 水道事業の健全な経営維持強化を問う

**答** 事業運営の最適化に努め  
サービス向上・経営効率の確保を目指す



寺井 良徳 議員



する。耐震化・更新計画に定めた重要度の高い施設から着実に推進する。

**問** 公共事業・民間工事の残土処分対応についての盛土規制法の概要を問う。

**答** 公共・民間工事の残土も含めて、一定程度の面積や高さにより盛土規制法の許可申請又は届出を行う上で適切に処理することとなる。今後、将来的な残土処理のあり方について関係団体等と意見交換を行う。

**問** 平成30年8月に策定された新水道ビジョンは今年で8年目を迎える。今後さらに市民が安心して水道水が使用できるよう努力を重ね、計画的な配水管路対応、老朽管の取り替え、施設の整備対応、健全な経営の取組等、安心・安全・安定を目指す必要性を問う。

**答** 新水道ビジョンに加え、耐震化・更新計画、経営戦略が令和8年12月に更新時期を迎える。これらの計画を情勢の変化に応じて見直す。さらに、適正な料金設定並びに安定的な財源確保に努める。

**問** 施設管路の老朽化・設備の耐震化について問う。

**答** 給水を優先すべき重要施設と配水管の洗い出しを行い、防災対策上重要な配水管及び水環境を整備



制御監視室の耐震化を行った益田水源地

## 問 小児科のオンライン相談サービスの導入を問う

**答** アプリによる相談サービスの実施について検討する



河野 利文 議員



**問** 小児科専門の診療所の減少に伴う保護者の不安や不満の声は減っていない。さらなる対応として小児科のオンライン相談サービスの導入を検討すべきと思うかどうか。

**答** アプリによる相談サービスの実施について検討するとともに、現行の小児診療の継続ができるよう、関係機関と連携し、医療機関への支援に努めていく。

**問** 医療人材の育成について、県立益田高等学校の果たす役割は大きい。同校への支援を強化していく必要があると思うかどうか。

**答** 来年度からはコーディネーター業務などの伴走支援を強化し、高校の魅力化向上に資する支援の充実を図るよう検討している。



小児科オンライン相談の導入を！

**問** 今年9月に丸山知事は、県立西部高等技術校を活用した、2年制の職業能力開発短期大学の新設を検討する方針を示した。萩・石見空港の利用促進、石見臨空ファクトリーパークの企業誘致促進など、今後の産業振興に繋がる大きなチャンスをもたらしたと期待をしているが、この構想実現に向けた市長の決意を問う。

**答** 県はもとよりさまざま関係機関とも調整を図り、職業能力開発短期大学の設置を後押ししていきたいと考えている。



# 個人質問

## 問 市内高校連携推進事業を問う

**答** 県立益田養護学校は対象外  
特別支援教育に係る巡回相談などで連携

**問** 当市は学力の育成などを中軸とした益田市型中高一貫教育に取組んでいるが、県立益田養護学校は対象外となっている。同校と市内高校連携推進事業のあり方を問う。

**答** この事業は県立益田養護学校を対象にしていないが、特別支援教育における益田圏域のセンター機能を有しているため、特別支援教育に係る巡回相談やケース検討、あるいは年長児などの就学前相談などに、教育委員会と連携して取組んでいる。

ないか。

**答** 道路管理者である市は、道路を常時良好な状態に保つように維持・修繕し、一般交通に支障を及ぼさないように努めなければならぬが、道路維持管理の決算額を見ると、令和元年度2億7千500万円だったものが令和6年度決算時には5億7千100万円に増加している。限られた財源を有効に活用し、未来を担う子どもたちが暮らしやすいまちづくりを進めていくためにも、利用頻度の著しく低い道路のあり方を検討することは避けられない課題である。

## 問 雨天時の子ども遊び場を整備すべきでは

**答** 財源確保等、課題は多岐にわたるが  
意義ある取組と認識している

**問** 市民体育館のキッズルームや子育て支援センターがあるものの、依然として休日、とりわけ雨天時の外出先に苦慮する子育て家庭が多い現状である。万葉公園などは、雨天であれば当然利用できず、仕方なく市内ショッピングセンター内のゲームコーナー等で時間を潰す家庭も多い。雨の日の遊び場は、当市で子育てをする以上、切っても切り離せない課題の一つである。萩市では、令和3年に旧明倫小学校体育館をリニューアルした屋内運動場を開設し、身体を使って遊べる施設として好評を得ている。当市でも、子どもたちの遊び場として廃校の体育館等未利用公共施設の活用を検討すべきではないか。

**答** 廃校等未利用公共施設を地域資源として活用するには、遊具の設置費用や、耐震化などの建物改修にかかる多額の財源確保が必要となる。加えて、運営における安全面や維持管理を担う団体の確保、設置場所の利便性など解決すべき課題は多岐にわたる。このような状況を踏まえると、直ちに設置するということは困難だが、子どもたちの健やかな成長や居場所づくりの観点から意義ある取組であると認識しており、今後公共施設のあり方を検討する際には、この点を念頭に置き検討したい。



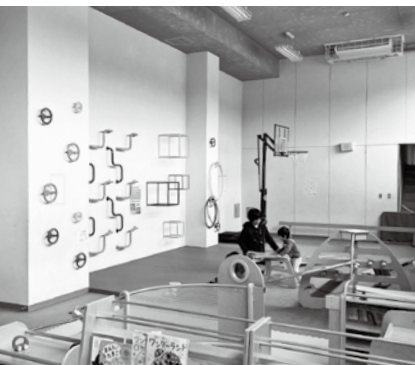
とよた ひろし 議員  
豊田 浩



県立益田養護学校



ふたば ひかる 議員  
須藤 一三



手狭になってきた  
市民体育館キッズルーム

## 問 情報リテラシー向上に関する意識啓発は

**答** 民間団体等と連携したアピール活動など啓発を行っている



たかし ともりのり 議員  
高橋 伴典



**問** ネット詐欺被害等、トラブルの現状把握と対策を問う。

**答** 県内においては、令和7年10月末現在で、オレオレ詐欺や架空料金請求詐欺など合わせて被害件数92件、被害金額3億9千324万円を確認している。対策としては、緊急放送装置による情報発信等、市民への迅速な注意喚起等に努めている。

**問** 非認知能力の一つである批判的思考力が情報リテラシー向上に必要であると考えるが、教育現場における認識を問う。

**答** 批判的思考の育成は、思考力・判断力・表現力に関係が深い。ライフキャリア教育や対話を通じた活動、探究活動などを地道に積み重ねることがその育成につながる

と考えている。

**問** 市民の情報リテラシー向上に関する意識啓発について問う。

**答** 教育委員会では、本市の情報リテラシー向上推進協議会による研修会を行っているほか、地域住民にとって身近な公民館において意識啓発を行っている。

また、消費生活全般において、さまざまな苦情や詐欺被害に関する相談が寄せられている。被害の注意喚起を図るため、消費者セミナーの開催、市公式ウェブサイトにの注意情報の掲載、民間団体等と連携したアピール活動など、啓発に取り組んでいるところである。



学校における  
情報リテラシー育成教室の様子

## 問 食料自給率の向上はなぜ進まなかったのか

**答** 高度経済成長期以降の食生活の変化と農業者数、耕地面積の減少が影響している



ふくはら むねお 議員  
福原 宗男



**問** 高市首相は参議院での代表質問で、自給率100%を目指した

いと答弁した。1999年に「食料・農業・農村基本法」が施行され、食料安全保障という言葉が初めて明記された。当時、法の内容を検討する部会において、農家代表は自給率を60%にすべきだと主張した。理由は、60%であれば、いざ輸入停止となっても国民が飢えることはないというもの。消費者代表も賛同した。経済団体代表は日本の食料生産技術は世界トップクラスであることから、海外の安い農地や労働者を使って生産したものを輸入すべきと発言。結果的に10年後に50%を目指すこととなった。当時の自給率はカロリーベースで41.2%程度だったが、

これまで一度も達成したことはなく、15年連続で40%を切る状況であり、現在も38%程度に留まっている。政府は2030年には45%にするとしているが難しいと思われる。自給率が上がらなかった原因をどう分析しているか。

**答** 食料自給率低下の主な原因としては、高度経済成長期以降の食生活の変化、つまり日本型から欧米型食生活に変わったこと、農業者数と耕地面積の減少が影響していると考ええる。



圃場整備された横田地区の農地



## 問 今後の地域公共交通のあり方を問う

**答** 地域公共交通活性化協議会において議論し、効果的なものとしたい

**問** バス路線の廃止が続いている。廃止になった経緯は、利用者減少も理由の一つである。現在の地域公共交通は市民にとって利用しやすいものとなっているか。

**答** 自家用車に慣れた人にとって、停留所まで歩くこと、乗り換えること、時刻表に合わせた行動をすることなどがハードルになっていると聞く。一方で高齢者や児童生徒など、移動に困難を感じる人にとっては欠くことのできない手段である。路線廃止による交通空白は、代替交通として乗合タクシーを運行し、意見を汲み取る中で改善を図っているが、利便性には課題がある。

**問** 自家用車が広がった今、利用しやすい形に変える必要がある。

長野県茅野市ではバス事業に赤字補填してきたが、協議を重ね、バスを最小限にし、それ以外をAIデマンド乗合タクシーとした。結果的に事業費は若干増えたが、利用者は約2倍となった。事業者や運転手に不利益とならないことを前提として、今後の公共交通のあり方を問う。

**答** 地域に適した交通体系が必要だ。当市における地域公共交通活性化協議会では、さまざまな分野の代表者が集まり、幅広い意見を収集できる。有識者からもより実践的な提案をいただき、効果的で効果的なものとしたい。



ひらはら ゆういち 祐一 議員



地域公共交通のり・デザイン (国土交通省HP)

## 問 益田匹見風力発電事業のスタンス・取組を問う

**答** 風力発電施設建設等ガイドラインに沿った事業実施を求める

**問** 益田匹見風力発電事業はアジア風力発電(株)が匹見町道川地区に、最大出力5万4千KW、13基の風力発電機を設置する事業である。当市のスタンス・取組は。

**答** 当事業はすでに着工している。自然環境や住民生活を守るための環境負荷回避、専門家や地域住民等の意見を踏まえた慎重な事業計画の実施を求めている。

**問** 風力発電所建設地は標高900m。建設工事での土工量が大きく、切土盛土約65万m<sup>3</sup>が必要とされている。どのように工事の適切な進捗把握をするのかを問う。

**答** 土地の改変において、計画は1万7千m<sup>3</sup>の残土処理が発生する。当然関係法令に従い適切に処

理されるものと考えているが、ガイドラインに基づき、関係資料の提出、適時報告を求めていく。

**問** 事業実施での災害リスクについて、近年時間雨量100mmの大雨が降っている。土石流発生及び濁水が匹見川に流れ込まない対策を問う。

**答** 補強土壁の設置、谷側の盛土最小限化、土砂流出防止柵の施工、安定勾配での切土、種子吹付け等の法面保護工、沈砂池及び防災調整池、災害時の対応保険加入等、事業者に求めている。



おおく ほ ごろう 大久保 五郎 議員



## 問 緊急銃猟の想定を問う

**答** 市民の生命または身体に被害が及ぶ場合には迅速的確に判断する



かわもと あきら 議員



**問** 10月16日、緊急銃猟にかかる現地研修会が開催された。事故が起こった場合は市町村が責任を負うことになる。研修会においてどのような問題が見つかったか、緊急銃猟の想定を問う。

**答** 緊急銃猟制度の運用にあたっては市民の生命または身体に被害が及ぶ恐れがある場合は、迅速的確に判断しなければならないと想定している。研修会においては、安全かつ迅速に駆除するための体制づくりが重要と認識した。定期的な訓練や講習会を通じ、事前に統一した手順を整える必要があると考える。

**問** 緊急銃猟にかかる担当職員とというのは専門的な知識が必要になる。今後の職員の育成を問う。



熊による全国的な被害が拡大

**答** 有害鳥獣専門員と職員が連携して現場対応にあたることを通じて、知識や経験を着実に積み重ねていきたいと考える。

**問** 有害鳥獣被害防止のためにはIT技術の活用なども必要になってくると思うがどうか。

**答** ドローンを使用した生息状況の把握やセンサーカメラを活用した加害個体の把握により、捕獲や追い払いの向上に繋がっている。今後も地域特性に応じた先端技術の活用を進め、効率的・効果的な鳥獣被害対策を推進する。

## 問 子どもの最善の利益の観点で見る将来像は

**答** 「益田市子ども計画」の基本理念に基づき、安心して育つことのできる環境整備に取り組む



ながみ あけみ 議員



**問** 虐待は少なからずあると思うが、「こどもの最善の利益」の観点からの将来像は。

**答** 「益田市子ども計画」の基本理念に基づき、将来にわたり子どもが安心して育つことのできる環境整備に取り組む。

**問** 産後ドゥーラやこども家庭ソーシャルワーカー等も大切ではないか。

**答** 産後ドゥーラは、現時点では検討していない。こども家庭ソーシャルワーカーは、今年度、職員1名が資格取得に向けた研修を受講。来年度以降も計画的に進める。

**問** 日本人女性が最も罹患する乳がんは、早期発見早期治療で90%

が治る病気でもある。乳がん検診の必要性和当市の取組を問う。

**答** 女性を取り巻く環境に応じた検診体制の構築と必要な情報提供・啓発を今後も継続する。

**問** 骨粗鬆症は、早期発見に向けて取組むことでフレイル予防にもなる。予防や早期発見は大切ではないか。

**答** 圧迫骨折の多くは骨粗鬆症が原因であると考えられ、予防は重要である。健康イベント等で、超音波骨量測定器を活用し関心を高める取組をしている。若い世代からの対策も重要であり、学校や企業等と連携し、各年代に応じた取組を進める。



オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン



**問** 学校を核とした地域づくりを問う

**答** 地域自治組織をはじめ、地域でのつながりや広がりにも貢献していく

**問** 当市は、周辺地域に住み続けられるための施策として、学校を核とした地域づくりを進めている。学校を中心として進めていく上では、地域の人材確保や支援が必要と考えるが、現在の課題と支援体制を問う。

**答** 地域と学校の連携を深めるためにコミュニティスクールの導入を推進し、ふるさと・ひとつなぎコーディネーターを配置することで、つろうて子育て協議会や地域自治組織をはじめ、さまざまな地域でのつながりや広がりづくりに貢献していく。

**問** 学校や公民館が拠点として機能しても、そこへの移動手段が確保されなければ地域のつながりは維持できない。地域拠点へのアクセスのための交通施策、買い物・生活支援サービスの方向性を問う。

**答** 交通事業者の運転手不足等でも、地域によっては無償運送の取組が増えている現状であり、地域からの相談に対してしっかりと対応していく。多様な意見を地域公共交通計画に盛り込み、今後の持続可能な公共交通体制を確保していく。

**問** 持続可能な地域づくりの覚悟と危機感を問う。

**答** 体制を整えたうえで、包括的に地域づくりの伴走をしていく。



おがき みつなり 議員  
大賀 満成



ふるさと・ひとつなぎコーディネーターを配置してコミュニティスクールに取組んでいる戸田小学校

**問** 国民健康保険の子どもの均等割軽減拡充を

**答** 経済的負担軽減を図る上で重要な施策 国に強く要望している

**問** 国民健康保険税の算出方法は、協会けんぽの計算式と大きく違う。協会けんぽの場合は、本人の平均月額給与金額で決定するので、扶養人数が保険料に反映されることはない。一方、国民健康保険の場合は、所得に対して13・64%、均等割の加入者一人につき、4万9830円、世帯割の3万2800円の三つの計算式が合算され賦課される。

**問** そのため、扶養人数が多くなれば所得に関係なく保険料が高くなる仕組みになっている。令和4年度に厚生労働省は、未就学児の均等割を5割軽減する措置をとった。さらに国に対して、軽減割合の拡充を求める考えはないか。

**答** 子育て世帯の経済的負担軽減を図る上で重要な施策であると考える。全国市長会国民健康保険対策特別委員会においても継続して重点提言に位置づけ、国に対して強く要望している。

**問** 報道によれば、現在国において令和9年4月から均等割軽減の対象を18歳まで拡大する方向で検討を進めているとあった。引き続き国に要望を届けるとともに、その動向を注視していきたい。



あだち みつあき 議員  
安達 美津子



赤ちゃんにも均等割



議案等の審議結果

出席議員全員が賛成した議案

(全会一致で、議案は「可決」、人事案件は「同意」、報告案件は「承認」とされました。)

議案番号	件名	議案番号	件名
<b>市長提出議案</b>			
議第68号	益田市の議会の議員及び長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例制定について	議第84号	令和7年度益田市水道事業会計補正予算第2号
議第69号	益田市手数料条例の一部を改正する条例制定について	議第85号	匹見中央公園の指定管理者の指定について
議第70号	益田市立保育所設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について	議第86号	市道路線の認定について
議第71号	益田市家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について	議第87号	市道路線の廃止について
議第72号	益田市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について	議第91号	益田市職員給与に関する条例等の一部を改正する条例制定について
議第73号	益田市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例制定について	議第92号	益田市乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例制定について
議第74号	益田市乳幼児等医療費助成条例の一部を改正する条例制定について	議第93号	益田市特定乳児等通園支援事業の運営に関する基準を定める条例制定について
議第75号	益田市火入れに関する条例の一部を改正する条例制定について	議第94号	令和7年度益田市一般会計補正予算第4号
議第76号	益田市営住宅設置条例の一部を改正する条例制定について	議第95号	令和7年度益田市介護保険特別会計補正予算第3号
議第77号	益田市定住住宅設置及び管理に関する条例及び益田市定住住宅駐車場条例の一部を改正する条例制定について	議第96号	令和7年度益田市国民健康保険事業特別会計補正予算第3号
議第78号	益田市公共下水道条例等の一部を改正する条例制定について	議第97号	令和7年度益田市後期高齢者医療特別会計補正予算第3号
議第79号	令和7年度益田市一般会計補正予算第3号	議第98号	令和7年度益田市下水道事業会計補正予算第3号
議第80号	令和7年度益田市介護保険特別会計補正予算第2号	議第99号	令和7年度益田市水道事業会計補正予算第3号
議第81号	令和7年度益田市国民健康保険事業特別会計補正予算第2号	議第100号	益田市立益田市総合福祉センターの指定管理者の指定について
議第82号	令和7年度益田市後期高齢者医療特別会計補正予算第2号	議第101号	令和7年度益田市一般会計補正予算第5号
議第83号	令和7年度益田市下水道事業会計補正予算第2号	議第102号	教育委員会委員の任命について
<b>報告案件</b>			
報第16号	専決処分の報告について		

賛否の分かれた議案

(棄権、除外があった場合も含まれます。)

議案番号	件名	審議結果	賛成	反対	佐々木 恵二	須藤 一三三	豊田 浩	永戸 明美	阿知波 武雄	平原 祐一	齋藤 勝廣	河本 亮	高橋 伴典	中島 賢治	大賀 満成	河野 利文	安達 美津子	中島 守	林 卓雄	大久保 五郎	福原 宗男	寺井 良徳	久保 正典	
<b>市長提出議案</b>																								
議第88号	益田市議政務活動費の交付に関する条例の一部を改正する条例制定について	可決	17	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○
議第89号	益田市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例制定について	可決	17	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○
議第90号	市長等の給与に関する条例の一部を改正する条例制定について	可決	17	1	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○
<b>請願案件</b>																								
請願第5号	益田市のバス停へのベンチの設置について	不採択	3	15	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	○	●	●	●
請願第6号	政府における所得補償(直接支払い)制度の実現を求める意見書の提出について	不採択	3	15	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	○	●	●	●	●

○：賛成 ●：反対 欠：欠席 棄：棄権 除：除外  
 ※ 議長(佐々木 恵二)は採決に加わりませんが、可否同数となったときは、議長が裁決します。  
 ★ 除外とは★ 議会における審議を公正なものとするため、議題となった案件と利害関係にある議員をその審議に参加できないようにすることです。



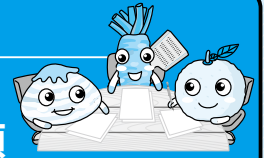
議長の仕事とは？  
 「議場の秩序を保持し、議事を整理し、議会の事務を統理し、議会を代表する」(地方自治法第104条)。本会議の進行や議会内の調整、各種行事への出席等。

# 令和7年度一般会計補正予算案など原案どおり可決

12月定例会では、令和7年度一般会計補正予算のほか、条例の制定及び一部改正、一般議案等について慎重な審議をした結果、原案どおり可決しました。ここでは、主な補正内容についてお知らせします。

## 令和7年度一般会計補正予算

補正後の一般会計予算総額…… 295億7,370万8千円  
補正額…… 7億5,682万5千円 増額



### 総務費 徴税费

定額減税補足給付金  
(不足額給付) 事業費 800万円  
・定額減税補足給付金 (不足額給付) の  
給付見込みの増に伴う増額



### 民生費 社会福祉費

障がい児通所支援給付事業費 6,443万6千円  
・障がい児通所支援サービスの給付実績  
及び見込みによる増額



### 民生費 児童福祉費

教育・保育施設等給付費  
1億8,355万6千円  
・国が定める公定価格の増加等に伴う  
教育・保育施設等給付費の増額



### 民生費 児童福祉費

子育て応援手当等給付事業費  
1億8,710万7千円  
・物価高騰対応重点支援地方創生臨時  
交付金を活用した子育て応援手当等の  
給付に係る経費



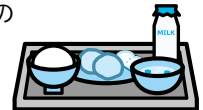
### 商工費 商工費

温泉管理費 423万1千円  
・匹見峡温泉「やすらぎの湯」及び  
美都温泉「湯元館」にかかる修繕等  
による増額



### 教育費 保健体育費

学校給食提供支援事業費 1,431万8千円  
・米の価格高騰に対する、学校給食の  
安定提供に必要な経費の増額



## みなさんからの請願審議結果

請願審議結果 12月定例会受理分			
議案番号	件名	提出者	審議結果
請願第5号	益田市のバス停へのベンチの設置について	新日本婦人の会 益田支部 支部長 大賀 貴美枝	不採択
	バス停へのベンチの設置について、高齢化が進む本市においても利用者の利便性確保の観点から重要性については理解できるところである。しかしながら、当市の地域公共交通を取り巻く環境において課題は多岐に渡り、その中でも路線の見直し等が今後も予想される中、限りある財源で路線維持や市民の移動手段の確保に向けた取組を優先すべきであり、ベンチの設置に関しては、他の事項に比べ優先度が低いものであると考え、本件については、不採択と決した。		
請願第6号	政府における所得補償（直接支払い）制度の実現を求める意見書の提出について	島根県農民運動連合会 会長 田食 道弘	不採択
	所得補償（直接支払い）制度の導入については、現状における課題及び政策全体の整合性を踏まえた検討が必要である。まず、急激な物価上昇や生産コストの高騰に関しては、農業を含む全産業において共通の課題となっており、政府としても補助金や支援策を実施している。所得補償については、一時的な対策としては効果を発揮するものの、長期的な対策としては限界があり、根本的な解消には至らない。また、農業の持続可能性を高め、農業生産者の生産意欲や安定した経営を確保するためには、価格の安定化に向けた取組や、気候変動に対する対策、技術革新を促進することがより効果的であり、他の支援策と合わせて検討すべきものであると考え、本件については不採択と決した。		



副議長の仕事とは？

議長が事情により議長の仕事ができない時に、議長の仕事を代行します。

# 審査結果

各委員会で審査した結果を抜粋して掲載します。



## 総務文教委員会

### 「益田市中山間地域振興基本計画」策定

益田市中山間地域振興基本条例に則った基本計画が策定された。この間、パブリックコメントにて寄せられた意見をもとに修正され、完成版として500部製本。地域自治組織役員や地域魅力化応援隊員、地域マネージャー、各公民館などに配布が計画されている。

問 議会として基本条例を作った際には、市内でも中山間周部の振興を図るという意図だったが、この計画では益田市全域の振興計画となっている。条例の趣旨と違っているのではないか。

答 条例内でも山村振興法などに基づき区域を定めている。そのため益田市全域が中山間地域となっていることから計画の対象としている。固 条例では市長が毎年、施策の実施状況を議会に報告しこれを公表しなければならないこととなっているがどうか。

答 当然、把握した上で計画策定している。議会に対して報告し、内容のブラッシュアップに努める。



「益田市中山間地域振興基本計画」と同策定委員会の様子

問 各地域へ計画を配布するとされているが、計画全体を説明しても混乱するため、内容を絞った研修等の実施が必要と考えるがどうか。

答 地域自治組織役員や地域魅力化応援隊員、公民館などへ配布すると同時に、各地区での勉強会の開催も検討している。

## 福祉環境委員会

### 益田市総合福祉センターの指定管理者の指定

益田市総合福祉センターの指定管理者が指定された。築40年を過ぎ、建物全体が老朽化しており、今後のあり方について協議を重ねている。

問 同施設は無料で使用でき、市民からは、いろいろな地域の活動や団体の活動ができる大切な施設だと聞いている。「高齢者へ配慮し、土足で入館できるように」等してほしい。「トイレを洋式に」等意見もある。建物自体の改善計画を立てるべきではないか。

答 同施設において、試験的に土足で入館できる形で運用した際には、利用者の反応は好評であった。指定管理者とは、今後のセンターのあり方について改修などを含めた協議を重ねている。全体的な利用状況なども含め、今後細かい詰めを行いながら、計画を立てていく。

◇◇巡回診療体制の変更◇◇  
問 中西出張所、美濃出張所の巡

回診療を問う。

答 現在週1回(月4回)の頻度で巡回診療を実施しているが、令和8年1月以降については隔週(月2回)に変更する。

問 医師不足による巡回診療の縮小について、今後どのような方向性を考えているのか。

答 山間部の地域住民の医療インフラをどう守っていくのかは、非常に大きな課題だと認識している。当市としては、医師会病院や地域の診療所の医師の協力がないと難しい状況である。そういう意味でも、行政として支援をしていく。



益田市総合福祉センター



# 常任委員会

## 経済建設委員会

### ゆかた益田まつり開催決定

令和8年度「ゆかた益田まつり」は、令和8年5月31日（日曜日）の開催が決定した。令和7年度は8月31日に実施したが、実行委員会では暑さ対策の必要性が重視され、開催月を前倒すこととなった。

問 令和7年度は、高津の八朔祭と開催時期が重なったため、地域からも分散できないかという意見があるがどうか。

答 主催者からも、準備や運営に大変労力を割いたという声を聞いていたことも含めて、時期を検討した。



令和7年度「ゆかた益田まつり」

◇ツキノワグマによる人身事故の対応状況◇

12月4日の被害発生後、真砂地区に捕獲檻及びセンサーカメラを5基設置するとともに、周辺の柿の木の伐採を行った。ドローンによる赤外線調査や警察による巡回パトロールを実施したが、クマの捕獲には至らなかった。引き続き、地元猟友会の協力を得ながら捕獲に向けて取組む。

問 猟友会の高齢化に伴う専門職員の人材育成の必要性を問う。

答 今年度、新たに鳥獣専門員を雇用している。市職員と情報・技術を共有し、スキルアップを図る。



夜間、センサーカメラに映ったツキノワグマ

## 一般会計予算審査委員会

### 令和7年度一般会計補正予算審査

◇農道維持補修管理費◇

問 大谷羽原農道上の陥没を復旧するものだが、先般も同路線上の別の箇所で陥没があり復旧工事が完了したところである。益田広域クリーンセンターや益田市斎場への経路でもあるので、未然防止のためにもしっかりと点検調査をすべきだがどうか。

答 この度、連続して陥没事故が発生し、復旧に向けて動いている。また、点検調査によりもう一箇所崩壊につながりかねない場所を発見し、補修をかけている。今後とも管理を続ける中で状況を注視していきたい。



道路陥没や崩落が相次ぐ中、施設の長寿命化対策が急がれる

◇未来を担うひとづくり推進事業費◇

問 令和8年度から3カ年の委託となっている。これまでの取組を検証した上で、見直しをかける部もあると考えるが、現時点でどのような変更を検討しているか。

答 現在の事業の内容を分かりやすくするため事業名称を多少変更したが、これからも「益田市の未来を担うひとづくり計画」に基づきライフキャリア教育を推進する。

実施にあたっては、小中高校での聞き取りを行い事業の見直しを行っているが、従来の対話プラスやロールモデルとの出会い、高校の探究活動の支援といった基本的な柱は変わらず行っていきたい。特に、高校のコーディネートについては、強化した形で推進できるように検討している。



市議会では、常任委員会が所管する事務について、他の自治体等の先進的な取組みを調査・研究するため行政視察を行っています。

ここでは、今年度の視察内容について、報告します。

## 総務文教委員会

総務文教委員会では、令和7年10月28日（火）～30日（木）の間、地域公共交通に関する調査を目的として、長野県駒ヶ根市（ライドシェア）、同県茅野市（AI乗合オンデマンド交通）へ行政視察を行うとともに、移住定住に関する調査のため、東京都千代田区のふるさと回帰支援センターへ行政視察を行いました。



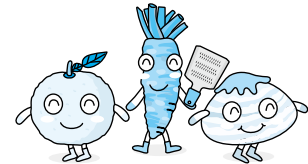
駒ヶ根市  
公共ライドシェア  
(meemo 駒ヶ根)  
(長野県駒ヶ根市)



AI乗合  
オンデマンド  
交通「のらざあ」の  
取組と新地域公共  
交通検討会議  
(長野県茅野市)



ふるさと回帰  
支援センターおよび  
しまね移住支援  
サテライト  
東京の取組  
(東京都千代田区)



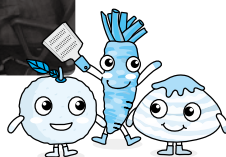
## 福祉環境委員会

福祉環境委員会では、令和7年11月14日（金）～15日（土）の間、重層的支援体制に関する調査を目的として、埼玉県北本市へ行政視察を行うとともに、デフスポーツやろうあ者に関する理解を深める事を目的として、東京2025デフリンピック「デフリンピックスクエア会場」への行政視察を行いました。



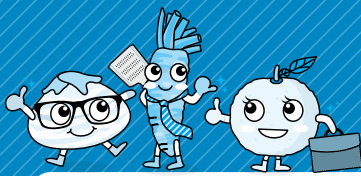
重層的支援体制  
整備事業  
(埼玉県北本市)

東京2025  
デフリンピック  
「デフリンピック  
スクエア会場」  
(東京都)



※福祉環境委員会では、子育て支援に関する調査を目的として、令和8年2月5日（木）に鹿児島県鹿児島市へ行政視察を行う予定です。





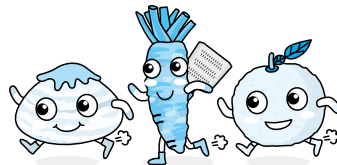
# 常任委員会行政視察報告

## 経済建設委員会

経済建設委員会では、令和7年11月19日（水）～21日（金）の間、DMOの取組に関する調査を目的として、群馬県みなかみ町（（一社）みなかみ町観光協会）、埼玉県秩父市（（一社）秩父地域おもてなし観光公社）へ行政視察を行いました。



DMOの取組について  
（群馬県利根郡  
みなかみ町）  
（（一社）みなかみ町  
観光協会）



DMOの取組について  
（埼玉県秩父市）  
（（一社）秩父地域  
おもてなし  
観光公社）



## 議会の活動

市公式ウェブサイトにおいて、議会（議員）の活動の一部を掲載しています。詳細は、下記の二次元コードをお読み取りください。なお、議長は議会の代表として総会などにも出席しています。※定例会・臨時会・委員会・調査会は除きます。



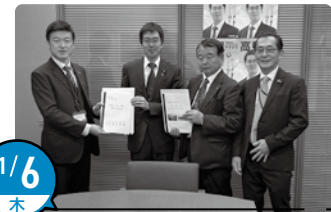
10/22  
水

全国高速自動車道市議会協議会  
令和7年度理事会



10/23  
木

萩・石見空港街頭PR



11/6  
木

山陰自動車道（益田～萩間）整備  
促進期成同盟会中央要望



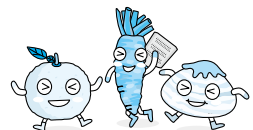
11/15  
土

第31回広島益田会総会



12/4  
木

（一社）島根県浄化槽協会  
益田支部要望



議会カレンダー

検索

※掲載期間は当月を含む前後2ヶ月程度で、順次更新しています。



# 市民にインタビュー vol.5

今回は、ふるさと・ひとつなぎコーディネーター  
いんさく なつぎ 岩坂 菜月さん・やまだ まこと 山田 真子さんにお話を伺いました！

**Q. 益田市でコーディネーターになったきっかけはなんですか？**  
 岩坂) 本当に偶然でした。オンラインで島根県の教育活動について聞く機会があり、益田市の取組を知りました。その後、広島での用事のついでに立ち寄ったのが始まりです。神奈川県に生まれ育ち都会生活だったので、地方での生活に憧れがあった気がします。コーディネーターになったきっかけは、先生じゃない関係で子どもたちに関われる仕事に魅力を感じたからです。子どもたちの「やってみたい」という思いに「いいね」「一緒にやってみよう」と関わることができるのが、この仕事の素敵なおところだと思います。また、これまでふるさとやコミュニティといったものに関わりがなかったからこそ、

一つのコミュニティに深く関わり活動してみたいと思いました。

山田) 大学時代に益田の社会教育に興味を持ち、長期休みを使って学びに来て、そこで出会った「ひと」に惹かれました。益田に縁もゆかりもない私に、「よう来たね。どうして来たの?」「また待っているよ」と多くの方が声をかけてくれたことがとても嬉しかったです。益田の「ひと」に出会えたことが、ここでコーディネーターとして働こうと思った決め手でした。

**Q. 現在はどんな活動をしていますか？**

山田) 子どもたちの「やってみたい」に伴走しています。今は「逃走中」をやりたいと伝えてくれたので、先生方やつろうて子育て協議会のみなさんとも作戦会議をしながら、地区全体で実現に向けて動けるよう計画中です。また、夏休みに行った「大学生と西益田を遊び尽くす1日」という企画も、児童の「学校でお泊まりがしてみたい!」という声をきっかけに、大学生の西益田実習に併せ開催しました。多くの地域の方が関わって非常に盛り上がりました。

**Q. 益田市の印象は？**

岩坂) とっても人が優しいなと思います。移住してきた人や、知らない若者に対してはすすごくウェルカムなのが印象的で、「ご近所づきあい」があまりなかった私にとっては新鮮です！

**Q. コミュニティスクール(コムスク)についてどう思いますか？**

岩坂) コミュニティスクールになったことをきっかけに、学校に来る地域の方や、子どもたちの名前を覚えている方が増えたと思います。学校と地域の方が話すようになり、双方の願いや想いが織り交ぜられるようになっていくのが、コムスクのスタートであり、良さの一つだと感じています。コムスクになればそれだけで学校と地域が繋がるわけではなく、間で動く人が必要になることもある。コーディネーターは、そんな役割の一端を担わせてもらっていると思っています。

山田) 西益田では、コムスクというより「スクール・コミュニティ」を目指していると感じます。学校を中心に、子どもや保護者・地域のひとが集まり、みんなで地域をつくっていく。コーディネーターは、公民館をカウンターパートナーとしながらその場作りを担っています。チーム西益田のみなさんは、一緒に創っていく仲間なのでとても心強いです。

**Q. 今後の夢を教えてください！**

岩坂) まちの中に、大人も子どもも、顔を知っている・話ができる人がたくさんできたらいいなと思います。子どもをきっかけに、いろんな人と出会い、関わりが豊かになったらと思って活動しています。あとは歴史教室と一緒にやったり、人権や道徳について一緒に考えたり、学校に多世代が共に学び合う空間が生まれていったらいいなと思っています。

山田) 自分もわくわくしながら、西益田の子ども・大人と色々チャレンジしてみたいです。いつか地元の富士市でもここで学んだことを何らかの形で還元したいと思っています。



岩坂 菜月 桂平小学校コーディネーター  
 神奈川県横浜市出身。東京で小学校教員として働いたのち、令和6年に益田市へ移住。令和7年4月から二条地区で活動。



山田 真子 西益田小学校コーディネーター  
 静岡県富士市出身。北海道の大学を卒業後、令和7年4月に益田市へ移住。現職として西益田地区で活動。



活動の様子

## ケーブルテレビ (ひとまろビジョン)

- ▶ 定例会・臨時会  
 どちらも放映  
 生放送 (111ch)
- ▶ 一般質問  
 再放送 (112ch)

## 編集委員

委員	委員	委員	委員	委員	委員	副委員長	委員長
高橋 伴典	齋藤 勝廣	阿知波 武雄	永戸 明美	豊田 明浩	須藤 一三	平原 祐一	安達美津子

## → 議会を傍聴しませんか？

議会は、どなたでも見たり聞いたりできます。詳しくは、議会事務局へお問い合わせください。

## 次回定例会の予定

次回定例会の予定は、2月25日(水)～3月19日(水)です。なお、正式決定は2月中旬の議会運営委員会で行います。詳しくは、議会事務局までお問い合わせください。

議会事務局 ☎ 31-0490

## 編集後記

近年SNSが発達し、非常に便利な世の中になりました。情報を得ること、発信すること、共有することも、これまでとは比べものにならないほど、簡単になりました。

一方で懸念する部分も益々明確になってきています。自らの素性を明かさず、匿名で発信することができるため、かねてから発言の正確性や責任の所在が問題視されてきましたが、その解決には至らないまま、特定の物事への誹謗中傷が後を絶ちません。一つの物事に對し、賛成する者、反対する者、それぞれの見解が匿名で示され、さらに個人が複数のアカウントを持つことも可能であるため、実態の数が分からないまま、巨大なうねりを作り出しています。多数派の意見が少数を排除することで、ある意味、言論統制のような空気感もつくられているのではないのでしょうか。そして個人的な誹謗中傷はより辛辣に人の心を傷つけ、その存在すらも否定されます。

必要なことは、自分とは意見の違う人も存在することを理解すること、相手の立場に立って物事を考えること、つまりは、多様性を認めあうことではないでしょうか。(平原 祐一)